

日本生体医工学会 平成 17 年度 第 4 回理事会議事録  
平成 18 年 1 月 13 日(金) 15 時～17 時 於 学士会分館 8 号室 (東京都文京区)

出席者

会長	堀 正二					
副会長	菊地 眞	辻岡 克彦				
理事	赤澤 堅造	石原 謙	稲田 紘	上野 照剛	梶谷 文彦	
	楠岡 英雄	佐久間一郎	砂川 賢二	千田 彰一	田村 俊世	
	千原 國宏	土肥 健純	仁田 新一	福井 康裕	山越 憲一	
監事	星宮 望					
幹事	近藤 寛也	守本 祐司				

欠席者

理事	林 紘三郎	山本 克之			
監事	北畠 顕				
国際誌	安藤 譲二				
C E	小野 哲章				
地方支部長	井街 宏	山内 一信	浜田 良機		
	高田 重男	村上 輝夫			

- 1 総務(辻岡)理事会成立の件
  - 1.1 開会時点での出席 16 名 理事会成立が確認された。
- 2 審 総務(辻岡)前回議事録承認の件
  - 2.1 前回議事録の承認が行われた。 資料 17-4-2
- 3 審・回覧 会員 入退会状況の件
  - 3.1 入会審査対象者 正会員 8 名、準会員 4 名、退会 正会員 9 名、準会員 1 名、維持会員 2 社、名誉会員 1 名。全入退会が承認され、正会員(国内)2558 名、正会員(海外)42 名、準会員(国内)379 名、準会員(海外)1 名、維持会員 21 社 31 口、顧問 13 名、名誉会員 43 名となった。 資料 17-4-3
- 4 審 編集(楠岡)「生体医工学」の電子ジャーナル化
  - 4.1 電子ジャーナルの維持およびサービス会社選定につき、編集委員(47 名)に対してアンケートが行われた。結果、23 名より回答があり、内容概略は以下のとおりであることが報告された。

電子ジャーナルは維持するべき。  
論文と特集は同時に公開することで問題ない。  
サービス会社(現行は「電子図書館サービス」)に関して。サービス会社として J-STAGE が候補に上がり、どちらを選定するか(あるいは両者を活用するか)についての判断は意見が分かれた。  
この報告を受けて、理事会では、 は承認され、 については、現行のままで続けることが承認された。なお、J-STAGE の活用については、コスト等の調査を経て、再審議される予定。 資料 17-4-4
- 5 審 ME 技術教育(稲田)ME 技術教育委員会新委員就任の件
  - 5.1 新委員 6 名の紹介があり、就任の承認がなされた。 資料 17-4-5

- 6 審 教育（田村）平成 18 年度サマースクールの開催について
  - 6.1 平成 18 年度サマースクールの日程等の紹介が以下のとおりあり、学会からの協賛金も含めて承認された。 資料 17-4-6  
 日程 平成 18 年 8 月 20 日(日)～22 日(火)  
 場所 立山国際ホテル(富山市)
  
- 7 審 (堀) WEB 入会・住所変更システムの件
  - 7.1 標記につき、事務局 村上氏より説明があった。その上で、入会に際して必要な推薦等の問題が審議された。すなわち、規約上、入会に際しては、推薦者 2 名の承認あるいは履歴書が必要とされるが、この手続きをどのようにすべきかについて意見交換が行われ、以下のような手続きで入会登録が行われることで承認された。 資料 17-4-7  
 推薦者承認による場合：WEB 上に、推薦者氏名等を記入する欄を設け、これを記載必須項目にする。  
 履歴書の場合：履歴書を PDF ファイルにして添付してもらおうか、書類を郵送してもらおう。
  
- 8 報・審 (堀)日本分子イメージング学会設立準備会参加の件
  - 8.1 標記学会の発足にあたって、当該学会（準備委員長 福井大学 藤林泰久 先生）より堀会長と菊地副会長に対して発起人参加の申し出があり、これに同意することで承認された。 資料 17-4-8
  
- 9 報・審 総務(佐久間)第 19 期日本学術会議 旧 人間と工学研究連絡会 医用生体工学専門委員会からの検討依頼事
  - 9.1 日本学術会議の機構改革があり、新体制について説明がなされた。その上で、日本学術会議連携会員に、本学会関連人材を積極的に推薦していくことが確認された。 資料 17-4-9
  
- 10 報 (佐久間)厚生労働省「次世代医療機器評価指標検討会」経済産業省「医療機器開発ガイドライン評価検討委員会」合同委員会に関する活動状況報告
  - 10.1 標記は、厚生労働省と経済産業省が協同して、次世代医療機器の迅速評価・承認を図るための会議であり、対象とする 5 分野のそれぞれで Working group (WG) を設け、審査・開発のガイドラインを決定していこうとするものであることが説明 上 あ 野の

\$rÀ

\*\_

\$@€

べて決済預金に振り替えられていること、などの説明があった。 資料 17-4-13

14 報 支部（赤澤）生体医工学シンポジウムリサーチアワードの件

14.1 生体医工学シンポジウムリサーチアワード受賞論文の選定結果が以下のように発表され、承認された。 資料 17 - 4 - 14

(1) 「歯科口内法 X 線撮影訓練システムの開発-X 線画像生成シミュレーションに関する評価」 徳安達士 他 3 名

(2) 「左心室形成術における切除線決定のための診断法の開発」 植松美幸 他 9 名

(3) 「人工心臓用空心型経皮エネルギー伝送システム-体外情報による出力電圧の安定化制御-」 糠谷優之 他 3 名

(4) 「人工毛細血管のための生分解性薄膜微細流路成型法(MeME)の開発」 池内真志 他 1 名

(5) 「日本語複文読解時における統語処理の MEG 計測」 渡辺直輝 他 4 名

(6) 「Open MRI 誘導下脳神経外科手術のための Integral Videography によるイメージオーバーレイナビゲーション」 廖洪恩 他 3 名

15 報 (上野)第 10 回 ME フォーラム 2006 の件

15.1 第 10 回 ME フォーラム開催について以下のように案内がなされた。 資料 17 - 4 - 15  
日時 平成 18 年 1 月 23 日(月)

場所 東京大学本郷キャンパス山上会館大会議室

15.2 次回以降の世話人として、佐久間理事、および安藤譲二先生が推薦され、承認された。

16 報 第 45 回大会（砂川） 第 45 回日本生体医工学会の開催概要および準備状況報告

16.1 標記につき報告があった。主な点は以下のとおり。 資料 17 - 4 - 16

一般演題申し込み 422 題、公募オーガナイズドセッション登録数 29 題であった。

スペシャルシンポジウムとして、医療機器実用化への障壁打開策に関して、米国食品医薬品局よりシンポジストを招待した。

スペシャルプログラムとして、高校生科学コンテストを企画し、応募したところ、現在までに 5 件の応募があった。

医療機器展示に多くの企業参加を促すよう、各理事に協力を求めた。

17 その他

17.1 協賛等の状況が回覧された。

17.2 試験事業基金に関する規定案について、事務局 村上氏より説明され、承認された。資料 17 - 4 - 17 - 1

17.3 高速電力線斑創痛腺設備に関する実験制度導入について寄せられた主な意見および総務省の見解について、堀会長より説明があった。学会としては、現時点では方向を見守るということで合意された。 資料 17 - 4 - 17 - 2

17.4 菊地副会長より、IFBME の次回理事候補者として辻岡副会長を推挙され、承認された。

17.5 梶谷理事より、上野理事の ME フォーラム世話人としての功績を称え、学会より感謝状を進呈する旨の提案があり、承認された。

資料

資料番号なし資料

「議事一覧」

17 - 4 - 2 日本生体医工学会 平成 17 年度 第 3 回理事会議事録案

17 - 4 - 3 平成 17 年度理事会入退会審査対象者

17 - 4 - 4 生体医工学の電子ジャーナル化について

- 17 - 4 - 5 ME 技術教育委員会(案)
- 17 - 4 - 6 第 4 回生体医工学サマースクール ( 共催 )
- 17 - 4 - 7 WEB 入会・住所変更システムの登録画面のコピー
- 17 - 4 - 8 日本分子イメージング学会 ( 仮称 ) 発起人参加へのお願い(案)
- 17 - 4 - 9 日本学術会議における今後の医用生体工学分野の活動について
- 17 - 4 - 10 厚生労働省「次世代医療機器評価指標検討会」経済産業省「医療機器開発ガイドライン評価検討委員会」合同委員会に関する活動状況の資料
- 17 - 4 - 11 平成 18・19 年度理事・監事候補者推薦結果
- 17 - 4 - 13 社団法人日本生体医工学会 収支計算書
- 17 - 4 - 14 生体医工学シンポジウムリサーチアワードについて
- 17 - 4 - 15 日本学術会議 ME フォーラム 10 回記念講演会案内
- 17 - 4 - 16 第 45 回日本生体医工学会の開催概要および準備状況報告
- 17 - 4 - 17 - 1  
社団法人日本生体医工学会における試験事業基金に関する規定 ( 案 )
- 17 - 4 - 17 - 2  
高速電力線搬送通信設備に関する実験制度導入について寄せられた主な意見および総務省の見解について